

## 知事との県民対話集会（泰阜村）概要

- ・開催日時 令和4年12月23日（金） 午後2時45分から午後4時15分まで
- ・会場 泰阜村役場 集会室
- ・参加者 県民40名、横前泰阜村長、阿部知事、丹羽南信州地域振興局長
- ・テーマ みんなで語ろう泰阜の子育て

### ・主な発言（要旨）

#### 【参加者】

・中学校の野球部員は1人。試合に出るためには合同チームを作らないといけないが、毎年、組む学校が異なることは避けたい。南部地区5町村で様々な部活の担当を決め、合同チームを作れるといい。

#### 【知事】

・先駆的に取り組む市町村を応援したい。広域で実施するモデルとしてやってみるのはどうか。地域振興局も一緒に考えてほしい。

#### 【参加者】

・来年度から部活動改革がスタートするが、山村地域の課題も汲み取ってほしい。  
・指導者の報酬について、何時間以上いないと出せないという制限や、指導者が複数名いるのに登録した1名のみしか支給対象とならない制度を見直していただきたい。

#### 【知事】

・教育委員会には、国が言う部活の地域移行ではなく、県教育委員会としてどう部活を支援していくか方針を考えるよう言っている。  
・村立学校なのに県が補助金を出さないと報酬が支払われないのか。そういうことを変えないといけない。  
・小さな町村の仕事と国の発想はずれてしまうので、国に柔軟にしてほしいと言うことが重要。

#### 【参加者】

・山村留学の協議会を立ち上げ、応援していただけることはありがたい。成果が出るには時間がかかるので、県の担当者には長く在籍してほしい。担当者の熱量により事業が続かなくなることがあった。

#### 【知事】

・県職員の異動スパンは長くするよう取り組んでいる。  
・職員の熱量が違うのは問題で、私の責任。組織風土を変えたいと思い、取り組んでいるところ。もっと県職員が皆さんのところに向いていく必要があるし、皆さんの方からも声をかけていただきたい。

#### 【参加者】

・高校魅力化プロジェクトが全国で進んでいるが、人集めになってしまっているのではないか。関係人口を深めるということであれば、教育的意義や地域づくりに軸足を置いた仕組みを県が率先して作ってほしい。

#### 【知事】

・県でも高校改革が進められているが、どんな特色のある高校にするのかをもっと明確に県民に示せるよう、教育委員会に考えてもらっている。  
・教育は変わらないといけない時期に来ている。不登校や発達障がいなど課題は多い。皆さんと一緒に考えていきたい。

【参加者】

・信州の子ども達こそ、地域の自然を生かした教育を受けるべきではないか。自然を使った教育活動が県内に広がるような学童保育の仕組みを作ってほしい。

【知事】

・自然保育は全国に先駆けて取り組んできたが、小学校との接続がよくないので、次は小学校を変えたい。  
・自然保育と山村留学は、県の強みとして発展させていきたい。老舗的に取り組んでいる皆さんの意見もいただきながら一緒に考えたい。

【参加者】

・1学年1クラス、10人前後で、保育園から中学校まで同じ顔触れであるへき地の学校こそ、学校以外の人とのいろいろなつながりが重要。学校以外のは、学校に行けなくなったときのセーフティネットになる。  
・少人数の中だと、皆で仲良くすべき、一緒にないといけないという、言葉ではない統治圧力がある。  
・へき地でも使えるオンライン等を用いて、学校以外で子ども達がつながれる場が増えるといい。

【知事】

・画一的な教育はやめた方がいい。子どもの多様性を尊重し、多様な居場所がある県にしていきたい。  
・小さな地域では、人間関係が固定されるので学校以外のは、学校に行けなくなったときのセーフティネットになる。  
・まずは、フリースクールを応援するため、認証制度を作りたい。  
・不登校は、子ども自身に問題があるのではなく、学校教育そのものが変わらなければいけないと思っている。先生に発達特性のある子へのアプローチを改善し、専門的な能力を身に付けてもらいたい。

【参加者】

・リニアが開業する飯田に4年生大学を誘致してほしい。まちなかで若い男性をあまり見かけないのは、4年制大学がないからではないか。

【知事】

・人口減少が進む中、新しく大学を作るのは時代のベクトルに逆行し、難しいことは共有いただきたい。  
・信州大学の学部の立地については、大学の自治なので、大学にしっかり考えてほしい。  
・長野県全体の大学収容定員が少なく、大学や学部の新・増設、定員増は、県も応援している。

【知事】

・女性が住みたい・住み続けたい地域にするには何が必要で大事なことか。

【参加者】

・長野県に来れば、しっかり子育てもでき、保障ももらえ、仕事も安心して休める、というメリットを打ち出せれば、大きな魅力になるのではないか。  
・子どもが3歳くらいまでは、母親が、休むか働くか選択できる仕組みがあるといい。  
・お母さん同士、女性同士でつながれるコミュニティがあればいい。  
・子どもを連れて仕事ができる環境があればありがたい。

【知事】

・経済的負担感の解消や保育士の確保、処遇の改善など、保育や子育ての分野でしっかり考えないといけないことが多い。問題意識を持ち優先順位をつけやっていきたい。  
・女性同士がつながる場は大事だが県レベルでは難しいので市町村レベルで考えてほしい。  
・職場に子どもを連れて行くことができるともいいし、それをおおらかに受け入れられる社会でありたい。そんな視点も念頭に置きながら考えたい。